

事業名：命の大切さを考える防災教育公開授業（学校安全総合支援事業）  
 モデル地域：四街道市立四街道中学校区 拠点校：四街道市立和良比小学校

所轄教育委員会：四街道市教育委員会

**1 モデル地域の現状及び安全上の課題**

<p>(1) モデル地域の現状</p> <p>○モデル地域名：四街道市立四街道中学校区</p> <p>○学校数：小学校 2 校 中学校 1 校</p> <p>(2) モデル地域の安全上の課題</p> <p>拠点校の地域は防災意識が高く、避難所運営委員会が市役所危機管理室や学校と連携し避難所開設・運営訓練を実施しているが、モデル地域全体の学校、家庭、地域及び関係機関の連携強化が課題である。また、児童生徒の災害や防災に関する知識も十分ではないため、地域防災と関わる活動を含めた様々な体験活動を取り入れた学習等により、知識を高め、自分の命を守ることでできる力を育成できるよう、各校における防災教育の充実を図る必要がある。</p>
---

**2 モデル地域の事業目標**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科等横断的な視点で各教科等の災害安全に関する内容のつながりを整理して学校安全計画等を見直し、実践を重ねることで、児童生徒の災害に関する諸課題に対応するための資質・能力の向上を図る。</li> <li>・千葉県教育委員会の推奨する『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を活用しながら、様々な手法を効果的に取り入れることで、児童生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>・児童生徒が自身の学びを保護者に伝える機会を意図的・計画的に設定することで家庭の防災意識も高め、安全推進体制の構築を図る。</li> </ul>
--

**3 取組の概要**

実施時期	計 画 事 項	参加者
6 月	○第 1 回実践委員会	実践委員
	○防災に関する事前アンケート	
	○第 1 回推進委員会への参加	市教委・拠点校職員
7 月	○校内授業研修会・授業展開	拠点校職員・実践委員・県内学校職員
	2・3・5 年	
	○第 2 回中核教員打ち合わせ会	モデル地域内中核教員・市教委
	* 第 1 回は 4 月	
	○市教委主催教職員研修会	市内学校職員
8 月	○3 校合同教職員研修会	モデル地域内学校職員・市教委
	・学校安全アドバイザーによる講演	
9 月	○わらびっこ防災教室	拠点校職員・拠点校保護者・地域住民・実践委員
		実践委員
10 月	○第 2 回実践委員会	
11 月	○公開授業	拠点校職員・実践委員・拠点校保護者・地域住民・県内教職員等
	・授業展開	
	1～6 年	
	・学校安全アドバイザーによる講演	
	○第 3 回中核教員	モデル地域内

	打ち合わせ会	中核教員・市教委
12月	○防災に関する事後アンケート	
1月	○第3回実践委員会	実践委員
	○第2回推進委員会への参加	市教委・拠点校職員

#### 4 具体的な取組

##### (1) 安全教育の充実に関する取組

###### ア 安全教育の充実に関する取組

###### (7) 実践委員会における情報共有

6月、10月、1月に実践委員会を開催した。実践委員会では、拠点校の実践を中心に、モデル地域の拠点校以外の2校の実践等についても共有を図り、協議を行うとともに、学校安全アドバイザーから助言をいただいた。

###### <実践委員>

千葉科学大学准教授、北総教育事務所指導主事、四街道市教育委員会（指導課長・指導主事）、四街道市役所危機管理室長、和良比小学校PTA会長・和良比小学校地域コーディネーター、和良比小学校避難所運営委員会事務局長、和良比小学校（校長・教頭・中核教員）、四和小学校（校長・中核教員）、四街道中学校（校長・中核教員）

###### (4) 防災教育に関する各種計画の作成及び見直し

学校安全計画等を見直すとともに、教科等横断的な視点から防災教育全体計画、災害、防災と関連する教科等の指導計画を作成し（別添1・2）、実践委員会での協議、学校安全アドバイザーから助言により、改善を行った。これらの計

画に基づき、各学年で地域や関係機関と連携した特別授業を含む実践（別添3）を行った。

###### (ウ) 公開授業の開催

拠点校を会場に、公開授業を実施した。

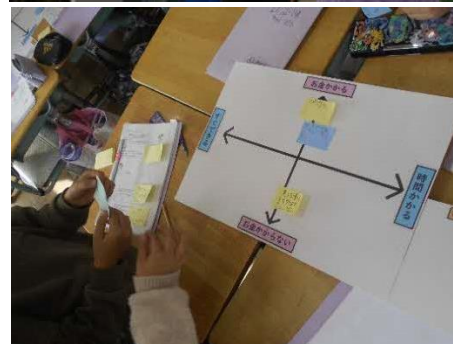
日時：令和7年11月12日

テーマ：災害・防災について知り、自分の命を守ることでできる児童の育成～教科等の特性を活かした学び合いの授業づくりを通して～

内容：生活科（1・2年）、総合的な学習の時間（3・4年）、特別活動（5・6年）の授業公開

参加者：県教育委員会、実践委員、拠点校職員、県内教職員等

参加人数：124名



###### (I) 講演会の開催

日時：令和7年11月12日

講師：学校安全アドバイザー  
千葉科学大学危機管理学部  
准教授 五十嵐 仁 氏

テーマ：激甚化する災害への備え～教育機関におけるオールハザード手法の

応用～

内容：防災教育、防犯教育を包括的に学ぶ安全学習等のオールハザードアプローチの必要性や、緊急事態発生時にワンチームで効果的に動くための組織的な対応について、事例を踏まえながら解説していただいた。

参加者：県教育委員会、実践委員、拠点校職員、県内教職員等、拠点校保護者、地域住民

参加人数：124名



#### (オ) 研修会の開催

教職員の防災意識の向上及び資質向上を図ること、モデル地域での取組を共有して自校の取組の参考にすることを目的に、次の研修会を実施した。

##### a 校内授業研修会

日時：令和7年7月7日

講師：【教科等別研究協議】

北総教育事務所指導主事3名  
(生活科・社会科・体育科保健分野)

【全体指導】

学校安全アドバイザー

千葉科学大学危機管理学部

准教授 五十嵐 仁 氏

内容：授業展開後、教科等別協議を行い、教科等の特性を活かした学び合いの授業づくりについて、

講師の方々に御指導いただいた。全体指導では、児童が自分の命を守ることができる力をつけるためのポイントについて御指導いただいた。

参加者：拠点校職員、モデル地域内中核教員、市内学校職員、市教育委員会

参加人数：52名

##### b モデル地域内3校合同教職員研修会

日時：令和7年8月21日

講師：学校安全アドバイザー

千葉科学大学危機管理学部

准教授 五十嵐 仁 氏

テーマ：児童の防災力を育む教育を考える～リスク・クライシス管理の視点から～

内容：市教育委員会からの事業説明、各校の防災教育の取組についての紹介を行い、3校教職員の共通理解を図った後、五十嵐准教授に御講話いただいた。

参加者：モデル地域内学校職員、市教育委員会

参加人数：112名

##### (カ) 学校・家庭・地域合同防災体験教室(わらびっこ防災教室)

日時：令和7年9月27日

内容：学校・家庭で連携し、シェイクアウト訓練、引き渡し訓練を実施した。その後、地域や関係機関の協力で、親子で消火器や煙ハウス等の体験をしたり、避難所運営に関する説明を聞いたりする防災教室を実施した。

参加者：拠点校児童・職員・保護者・PTA・避難所運営委員会、市消防本

部・危機管理室、消防団、市教育委員会

参加人数：1650名



- (4) 学校安全アドバイザーの活用  
千葉科学大学 危機管理学部  
五十嵐 仁 准教授  
派遣校数3校、派遣回数6回

## イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法

### (7) 拠点校における意識調査

拠点校の児童及び保護者を対象に、7月（事前）と12月（事後）に意識調査を実施した。（別添4）

事後調査の結果から、自分の家庭がどのような災害への備えをしているかについて把握している児童が増えたことがわかり、家族の一員としての防災意識の高まりが見られた。

### (4) モデル地域内教職員の防災意識調査（12月実施）

- a 令和6年度と比べて令和7年度の避難訓練は充実していたと回答し

- た教職員の割合は、100%であった。  
b 地域や防災関係機関と連携した防災に関する教育活動は児童生徒や教職員の知識と意識を高める上で有効だったと回答した教職員の割合は、98.7%であった。  
c 3校合同教職員研修会は、教職員の防災に関する知識と意識を高める上で有効だったと回答した教職員の割合は、92.3%であった。  
d 令和6年度と比べて令和7年度4月～12月の防災教育に関する取組（授業を含む教育活動や研修等）によって自身の知識や意識が高まったと回答した教職員の割合は、99%であった。

### (ウ) 四街道市の成果指標

6月（事前）と12月（事後）に市内全小中学校17校にアンケートを実施した。

- a 教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを行い、学校安全計画の見直し・改善を実施した学校の割合は、事前も事後も100%であった。  
b 教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを行い、災害、防災と関連する教科等の指導計画を作成した学校は、事前は拠点校のみであったが、事後は全ての学校が令和8年度の指導計画を作成した。  
c 地域や防災関係機関と連携した防災に関する教育活動を予定している学校は、事前には11校であったが、令和8年度は全ての学校が防災機関による出前授業や消防署等と連携した避難訓練を予定している。

## (2) 組織的取組による安全管理の充実に 関する取組

### ア 各種計画や危機管理マニュアルの 見直し

拠点校の学校安全全体計画、学校安全計画、危機管理マニュアルの内容について、実践委員会にて委員である市危機管理室長や避難所運営委員会事務局長、拠点校PTA会長よりそれぞれの立場から助言や意見をいただき、共に非常時の安全確保等について検討したことを基に見直しを行った。

### イ 消防署と連携した避難訓練の実施

10月に消防署と連携して火災を想定した避難訓練を実施し、避難時の改善点について指導を受けた。

### ウ 地域安全マップの作成

11月に4年生児童が総合的な学習の時間において、PTA校外補導部と連携し、防犯及び防災の視点から地域安全マップづくりに取り組んだ。

## (3) 学校安全の中核となる教員の学校安全 推進体制の構築における役割及び中核 教員の資質能力の向上に係る取組

### ア 中核教員打合せ会の実施

モデル地域内の学校では、3校とも教務主任や研究主任を中核教員とした。実践委員会や中核教員打合せ会を通して各学校の取組について共通理解を図り、自校職員に周知するとともに、その内容を自校の教育課程の編成や校内研修に活かし、安全主任と共に実践に向けた計画を作成できるようにした。

打合せ会は、4月、7月、11月に実施し、情報共有や各種計画の見直し等を行

った。

### イ 市主催防災教育研修会の実施

日時：令和7年7月28日

講師：津波復興記念資料館「閑上の記憶」語り部 丹野 裕子 氏

テーマ：東日本大震災が教えてくれたこと

内容：語り部の方によるオンライン講話後、モデル地域の学校の取組紹介、学校安全計画等についてのグループ協議を実施した。

参加者：市内学校職員

参加人数：33名

## 5 取組の成果と課題

### 【成果】

#### 拠点校において

- ・「災害、防災と関連する教科等の指導計画」を作成して指導にあたったため、児童は様々な教科等において防災について学ぶことができ、防災意識を高めることができた。
- ・関係機関から様々な講師を招き、防災に関する特別授業を展開することで、災害や防災について知る、防災を考える、備えについて話し合うなど、児童の主体的な学習につながった。
- ・災害発生時の様々な状況を想定し、安全計画や避難訓練の見直しを行うことで、教職員の危機管理意識を向上させることができた。
- ・家庭や地域と合同で防災教室を行ったり、地域人材を活用したりすることで、地域の一員であるという児童の意識を高めることができた。また、児童が学びを家庭に伝える機会

を意図的、計画的に設定したことにより、家庭で災害について話し合う機会が増加した。

モデル地域内の学校において

- ・避難訓練の内容が充実した。
- ・地域や防災関係機関と連携した教育活動に積極的に取り組んだことで、児童生徒や教職員の知識や意識が高まった。

市全体として

- ・防災に関する市主催教職員研修会や毎月の校長会議・教頭会議において、拠点校を中心とするモデル地域の学校の取組を周知し、共通理解を図ったことで、各校がモデル地域の学校の取組を参考に自校の取組について積極的に考えるようになり、市全体での危機管理意識が高まった。
- ・防災教育に関する市主催教職員研修会の実施が、各校に対して防災教育の重要性、必要性についてを再認識させ、自校の計画や取組について見直し・改善を行う機会となった。

**【課題】**

- ・教科等における防災教育や、防災教育における小中学校の連携の在り方について、引き続き調査・研究を進めていく必要がある。
- ・今後も各校において実態に応じた安全計画や防災計画等の改善に努めるとともに、訓練等を形骸化させることなく校内の危機管理を行うことができるよう、市内での情報共有の機会を確保していく。
- ・学校、家庭、地域が連携した防災教育の取組を進めていくために、学校

が家庭や地域と関わる機会を再考し、コミュニティ・スクールの活用等、推進体制を整えていく必要がある。

令和7年度 災害、防災と関連する教科等の指導計画

四街道市立和良比小学校

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語		まとまりのある文章を書こう(10~11)	つたえたいことをはっきりさせて書こう(9)			立場を明確にして主張しよう(6) みんなで作ろうパンフレット(7)
生活	がっこうとなかよくなるろう(5) つうがくろでみつけたよ(5) わらびしょうのサバイバル(11)	じぶんのあんぜんはじぶんでまもろう(7) 町のキラキラを見つけに行こう(9~11) 町のキラキラをあつめよう(9~11)				
理科			太陽の光(10) 電気の通り道(1)	電池のはたらき(5) 雨水のゆくえ(9)	天気と情報(台風と防災)(7) 流れる水のはたらきと土地の変化(9)	土地の作りと変化(11) かけがえのない地球環境(1)
社会			火事からくらしを守る(7)	自然災害からくらしを守る(7~9)	低い土地のくらし(5) 国土の気候と特色(5) 情報を生かすわたしたち(12) わたしたちの生活と環境 自然災害を防ぐ(1)	震災復興の願いを実現する政治(6) 新しい日本、平和な日本(1)
体育(保健)			わたしたちの健康(7)		自然災害によるけがの防止 ●◆(7~9)	地域の保健活動(12)
家庭					暖かく快適に過ごす着方・住まい方(2)	こんだてを工夫して●◆(7) 地域と共に生きる(2)
道徳	気持ちのよい生活(4) かぼちゃのつる(5) ハムスターの赤ちゃん(11) 命の始まり(2)	しんじていいのかな(9) おむかえ(12) やっと会えたね(12) ぼくもてつだうよ(12)	あなたならできる(4) おそろしいゲーム依存(9) つなみてんでんこ(9) ヒキガエルとロバ(6) 光祐くんのアサガオ(1)	目覚まし時計(4) 守りたい自分の情報(6) 命(7) おばあちゃんとの思い出(11) やっべし(3)	稲村の火(7) 食品ロスをどうふせぐ(11) ネット上の友達(11)	〇〇しながら(11) あかはなそえじ(7)
総合的な学習			守ろう、わたしたちの命 ●◆(通年)	発見！地域の安全工夫 ●◆(6~3)		
特別活動	じしんのはなしをきこう●◆(5) ぼうさいをべんきょうしよう◆(9)	じしんの話を書こう◆(5) ぼうさいをべんきょうしよう●◆(9)			避難ポスターを作ろう◆(11)	災害発生！今、私にできること◆(11)

●…別添3「各学年及び学校全体での実践」参照

◆…別添2「防災についての特別授業の展開」参照

( )…学習予定の月

## 別添2

## 令和7年度 防災についての特別授業の展開

## 四街道市立和良比小学校

学年	月日	教科	内容	備考	関係機関	保護者の参加
1	5月20日	学活	じしんのはなしをきこう	2年と同時開催（体育館で一斉）		×
	9月10日	学活	危機管理室の方に話を聞く	2年と同時開催	四街道市危機管理室	○
2	5月20日	学活	地しんの話の話を聞こう	1年と同時開催（体育館で一斉）		×
	9月10日	学活	危機管理室の方に話を聞く	1年と同時開催	四街道市危機管理室	○
3	9月9日	総合	防災教室 （起震車、水消火器、煙ハウス）	3ブース作り、学級ごとに体験	四街道消防署 四街道市危機管理室	○
4	7月2日	総合	まなぼうさい（出前授業）	2クラスずつの展開	千葉県西部防災センター	○
	10月17日	総合	避難所運営委員会との関わり	2クラスずつの展開	避難所運営委員会	○
5	9月19日	保健	救急救命（AED）	関係単元の最後に行う	四街道消防署	×
	10月14日	学活	東日本大震災の語り部から話を聞く	6年と同時開催	閑上の記憶	○
6	7月3日	家庭	日常食を非常食に（非常食づくり）	クラスごとに実施	コープみらい	×
	10月9日	学活	避難所運営委員会との関わり	6年全体で開催	避難所運営委員会	○
	10月4日	学活	東日本大震災の語り部から話を聞く	5年と同時開催	閑上の記憶	○

## 年及び学校全体での実践（地域や関係機関との連携）

## 1年 特別活動 じしんのはなしをきこう（5月20日）

## 1. 目的

- ・身近な大人から被災体験を聞くことで、防災について学ぶ動機や意欲をもつ。
- ・東日本大震災時、自分たちと同じ小学生だった職員や、学校現場で被災した職員から話を聞くことで、学校にいる間にも災害が起こりうること、また、起きた場合にはどうしたらよいのかを考えていくきっかけとする。

## 2. 目標

校内の危険な場所とともに避難の方法を理解することができる。（知識及び技能）

## 3. 内容、児童の様子

東日本大震災時に小学生であった職員から、被災の当時の様子、避難の様子、保護者による迎えも困難であったことなどを聞いた。体育館に集まったの授業であり、その職員も体育館にいた際に被災したことを聞き、児童は周りを見渡し、今ここで大きな揺れが来たら、と考えている様子であった。その後、電気やガスが使えなくなり、生活も困難であったことなどを聞いた。明かりもつかなくなる、ガスが使えないので料理もできなくなると聞いて、驚いている児童が多かった。

当時学校現場で働いていた職員から、揺れたその時には高学年でもとても怖がっていたことなど児童の様子や、その時にいた教室からどのように避難したか、また、東日本大震災だけでなく、阪神淡路大震災の経験も聞いたことで、児童は大きな地震は何年かおきに起こっていることや、次に自分たちの住んでいる地域で大きな地震が起きる可能性があることなどを知った。

津波についての絵本の読み聞かせを聞き、地震による被害が揺れだけではなく、津波や火災を引き起こす可能性があることを聞いた。どの児童も真剣に話を聞いており、防災について考える契機となった。

## 4. 児童の感想

- ・揺れたり、ものが壊れたり、落ちてきたりするものが怖かった。
- ・電気や水道が使えなくなったり、料理などができなくなったりしたら困る。どうしたらいいんだろう。わからない。
- ・どうしたらいいかを考えなきゃいけないと思った。

## 5. 成果と課題 ○成果 △課題

○普段接している職員からの話を聞かせたことで、地震や災害は遠くのものではなく、身近に起こりうることと感じさせることができた。

○その後の生活科における公園探検でも「公園で地震が起きたらどうすればよいか」と質問が出て、普段の生活にも防災についての視点をもたせることができた。

△低学年での実施であったため、映像などの資料を用意してもよかった。

## 2年 特別活動 ぼうさいをべんきょうしよう (9月10日)

### 1. 目的

- ・地震発生時に起きる災害に対する意識を高め、どうしたらよいか防災についての考えを深める機会とする。
- ・一次避難と二次避難の方法を知り、自分でもできる身近な防災について考える。

### 2. 目標

校内の危険な場所とともに避難の方法を理解することができる。(知識及び技能)

### 3. 内容、児童の様子

四街道市の危機管理室の方から、防災について説明を受けた。まず、様々な場面で地震が起きた時の避難の仕方クイズがあり、児童がすでに知っている知識の中で回答する時間があった。

次に、「防災」は地震などの災害に備えていることや安全を守れるようにすることだということを教わった。地震が起きた時の一次避難の仕方では、「だんごむしになる」という言葉を教わった。また、周りの大人の方の指示に従って、速やかに避難することの大切さを知る時間となった。

他にも、地震が来た時の備えとして、防災リュックを準備しておく必要性について話があった。防災リュックの中には何がどれだけ必要なかを詳しく教わり、家族の一員として、備えておくべきものは何なのかを考えるきっかけとなっていた。

今後、生活科の単元と関連させながらお店や施設の防災の取組について学習していく。その後、授業参観等で保護者に対し、学んだことを発表することを予定している。



### 4. 児童・保護者の感想

- ・どのように行動すれば危険ではないのかを考えて避難をしようと思った。 [児童]
- ・防災リュックを用意しておけば、地震が起きた時にも食事に困らないことがわかった。 [児童]
- ・地震が起きた時には、避難所へ行くことがわかり、何をもっていくのかがわかった。 [児童]
- ・事前の備えは何かを知ることができた。普段からできることをしていこうと思った。 [保護者]

### 5. 成果と課題 ○成果 △課題

○「防災」という言葉を知り、一次避難では「だんごむしになる」という言葉や大人の方の指示で二次避難をすることなど、どのように避難すべきなのかを理解する児童を増やすことができた。

○「～の場所にいたら」と自分の生活とむすびつけて考えさせることができた。

△今回は、話を聞くだけになり、実際に大きな揺れのある地震を経験していないため、想像ができていないところがある。

## 3年 総合的な学習の時間「守ろう、わたしたちの命」 防災教室 (9月9日)

### 1. 目的

- ・地震発生時の揺れや火災発生時の煙の中を体験することで、災害に対する意識を高め、どうしたらよいか防災についての考えを深める機会とする。
- ・初期消火の方法を知ったり、体験したりすることで、自分でもできる身近な防災について考える。
- ・市の危機管理室や消防本部の方に質問をすることで日頃の災害、防災に対する疑問を解決する。

### 2. 目標

災害の危険とともに防災について理解することができる。(知識及び技能)

### 3. 内容、児童の様子

こども防災(県の副読本)で学んだ災害や防災について実際に体験する機会となった。

起震車では震度7の揺れを体験し、体が大きく揺られ、動くことができない様子であった。地震がいつ来るか、いつまで続くかわからないことを考えさせると、自分の命を守れるか悩む児童が多かった。

煙ハウスでは、仮設の建物内に煙を充満させ、その中を歩いた。直立の姿勢よりかがんだ姿勢の方が、視界がよくなり、避難しやすいことを実感した。

水消火器体験では、初期消火の流れについて知り、実際に放水した。放水してみることで水がどのくらいまでの届くのか、消火器がどのくらいの重さなのかを知る機会となった。また、消火の前に大声で周りに知らせることなども大切だということも併せて学んだ。

学習後は国語科の学習と関連させ、今回学んだことや家庭でしておいた方がよい備えについて報告文を書き、家庭へ伝えた。



### 4. 児童・保護者の感想

- ・消防本部や危機管理室の方から聞いた話を家で家族に話して、災害時にどこに集まるか、水や食料の備えについてなどを確認したい。 [児童]
- ・本当に今日みたいな地震が起きたら、移動して机の下に入ることはできないんじゃないかと思った。次のシェイクアウト訓練では、今日の揺れを思い出してやりたい。 [児童]
- ・震度7を体験してみて、家の備えを考えないといけないと思った。 [保護者]
- ・報告文を読んで、子供と一緒に家の備えを確認したいと思った。 [保護者]

### 5. 成果と課題 ○成果 △課題

○実際に児童が揺れや煙を体験するよい機会にできた。

△一回に体験できる人数が限られているため、どうしても待つ時間が増えた。複数日にして展開学級を分けたり、体験のローテーションを再考したりするとよいと思う。

## 4年 総合的な学習の時間「発見！地域の安全工夫」（まなぼうさい 7月2日）

### 1. 目的

- ・防災に関わるクイズに回答しながら、自然災害が日常に起こり得るものだと気づき、防災について関心を深められるようにする。
- ・クイズを通して学んだことや、自分でもできる防災の取組について保護者に伝えることで、家庭と連携して防災について学習していく意識を高める。

### 2. 目標

災害の危険とともに防災について理解することができる。（知識及び技能）

### 3. 内容、児童の様子

西部防災センターの講師を招いて、防災に関係する話を聞いた。始めに、災害の分類や避難という言葉の意味について聞いた。児童は、自然災害が身近で起こりうるものであり、避難には防災に関わる知識が必要になると実感することができた。防災に関わるクイズは、有事の際の避難の仕方や、これまでの自然災害の被害などが出題された。クイズの後には、紙パックで簡易的な笛の作り方を学んだ。助けを求めるときに笛を使うという目的にすぐに気づいたり、身の回りのもので他にも防災グッズを作ってみたりしたいと発言する児童が多かった。

今回学んだ、避難の方法や防災グッズの作りなどを、こども防災（県の副読本）で確認しながら学習を進めていく。また、今後の学習で、自分の家の「マイ・タイムライン」を作成し、家庭へ伝えることを予定している。



### 4. 児童・保護者の感想

- ・クイズを通して防災についていろいろ学ぶことができた。 [児童]
- ・自分の家には消火器が備えられていない気がするから、確認してみる。 [児童]
- ・家族と防災グッズについて話したい。 [児童]
- ・防災対策はしているが、見直しも必要だと思った。家族みんなで話し合うことも大切だと改めて感じた。 [保護者]

### 5. 成果と課題 ○成果 △課題

○自然災害を日常生活の中に考えられるよい機会にできた。

○自分でもできる防災の取組を学ばせることができた。また、家庭としても災害に備えることの必要性を実感する家庭が増えた。

△自分や家族のために防災の学習に取り組もうとする意識を高める必要がある。

△クイズの内容や説明について、関心をもったことや疑問に思ったことを積極的に質問するよう、事前指導しておいたほうがよいと感じた。

## 5年 体育 けがの予防～救命講習～ (9月19日)

### 1. 目的

- ・保健体育科の学習の「けがの予防」を通して、災害等でけがをしない予防やけがをしてしまった時の簡単な手当を学び、災害時でも自分また相手に対して簡単な手当を行うことができる児童を育成する。
- ・消防士が講習を行う心肺蘇生法（胸骨圧迫・AED）を学び、緊急時でも自分自身にできることはなにか考えたり、行動したりできる児童を育成する。

### 2. 目標

簡単なけがの手当の方法などを理解することができる。（知識及び技能）

### 3. 内容、児童の様子

四街道消防署が行う心肺蘇生法の講習会を開き、児童たちは心肺蘇生法について「胸骨圧迫」や「AEDの使い方」を学んだ。練習用の人形（あっぱくん）を使って胸骨圧迫を行った。児童たちは、胸骨圧迫をするのに力を入れないと圧迫できないことや救急隊員がたどり着くまで胸骨圧迫するには体力を使うことなど体験的に学ぶことができた。AEDの活動では、学校に置いてあるAEDの場所の確認や使い方について教えてもらった。児童たちは、学校に置いてあるAEDの場所も知らない児童が多くいたため、場所の確認を取りながら興味をもち、話を聞いていた。また、AEDを使う手順を学び、実際に使ってAEDの使い方を学ぶことができた。胸骨圧迫の仕方やAEDを使うこと、またAEDを運んでくること等について学んだことは、今後地震等の災害時に他者のために行動できることを具体的に考える機会となった。



### 4. 児童の感想

- ・救急車を呼んでから約9分かかるから、その間にAEDと胸骨圧迫を交代ですることがわかった。もしも、倒れている人がいたときは今回学んだように処置を頑張りたい。
- ・胸骨圧迫をする前に、肩を叩いたり、呼吸しているか胸を見たりすることがわかった。
- ・今日、保健について学び、言葉だけでなく実践を想定した活動ができてとても分かりやすかった。最近、関東では大きな災害はないけど、もしもの時のことを学ぶことができてよかった。

### 5. 成果と課題 ○成果 △課題

○けがの手当から心肺蘇生法や自分や周囲の人のけがや人が倒れたときの対処法や手当を学ばせ、震災時の避難所などでも自分のできる簡単なけがの手当やAEDを使うときの手伝いなど、自分から他人のために行動したいという児童の前向きな気持ちを高められた。

△グループに分かれて活動を行ったが、反復で多く活動に取り組める班もあれば、活動があまりできない班もあった。

## 6年 家庭科 日常食を非常食に (7月3日)

### 1. 目的

- ・災害発生後の生活の様子を想像し、避難所生活になった場合での食料問題について考える。
- ・災害発生時は日常的に使っている物、食べている物で水を節約しつつ、健康を保てる食事をとれることに気付く。

### 2. 目標

被災時の状況を理解することができる。(知識及び技能)

### 3. 内容、児童の様子

生活協同組合コープみらいから講師を招き、非常食づくりの体験学習を開いた。始めに災害時における避難所ではどのような生活を送るか講話を聞いた。児童は現在の暮らしと比べ、実際にどのくらい不便になるのか、また食料問題や非常食の必要性について理解することができた。

今回の非常食づくりでは、日持ちしてストックしやすく、ふだんも使いやすい食品を使い、簡単に作れるという観点から「パンプリン」を作った。実際に作ったことで、児童は実際の調理時間や調理工程、どのくらい水を節約することができるのかなどを実感することができた。また作ったものを食べ、実際の味やどの程度お腹に溜まるかを確かめることができた。



### 4. 児童の感想

- ・ポリ袋だけであんなに簡単に調理できることに驚いた。
- ・作るの簡単なのにおいしかったから、違う味でも作ってみたい。
- ・災害時は思うように食べることができないということを改めて理解することができた。
- ・今回学んだことを家族とも話し合っ、家でも災害が起きたときのことを決め、準備しておきたいと思った。

### 5. 成果と課題 ○成果 △課題

○体験後に家庭でも実際に作ってみたい児童もあり、震災が起きた時にどのような準備が必要か考えさせるきっかけにできた。

△各クラス1時間で展開したため、実食する時間や準備、片付けが慌ただしくなってしまった。

△水を一切無駄にしておらず、洗い物もないことをこちらでより強調してもよいと感じた。事前指導や事後指導で、より震災時のイメージもたせることができると、よりよい学習になると思った。

# 全校 学校、家庭、地域合同のわらびっこ防災教室 (9月27日)

## 1. 目的

- ・学校、家庭、地域が集まり、地域防災への意識を高める。

## 2. 内容、児童の様子

講師：市消防本部、消防団第5分団、避難所運営委員会

内容：グラウンド（グラウンドで消防士・消防署員の活動見学と体験活動）



【消防署による放水】



【消防服、救命服着替え】



【煙ハウス体験】



【消火器体験】



【消防車展示】



【消防団第5分団による道具の説明】

体育館（体育館で避難所を利用する上での心がまえなど）



【簡易テント、段ボールトイレ等の展示】



【避難に備えるポイントの説明】

## 3. 児童の感想

- ・実際に体験することで初めてわかることが多かった。災害が起きた時に活かせると感じた。
- ・話を聞き、段ボールベッドなどに寝てみたことで、避難所生活をイメージすることができた。

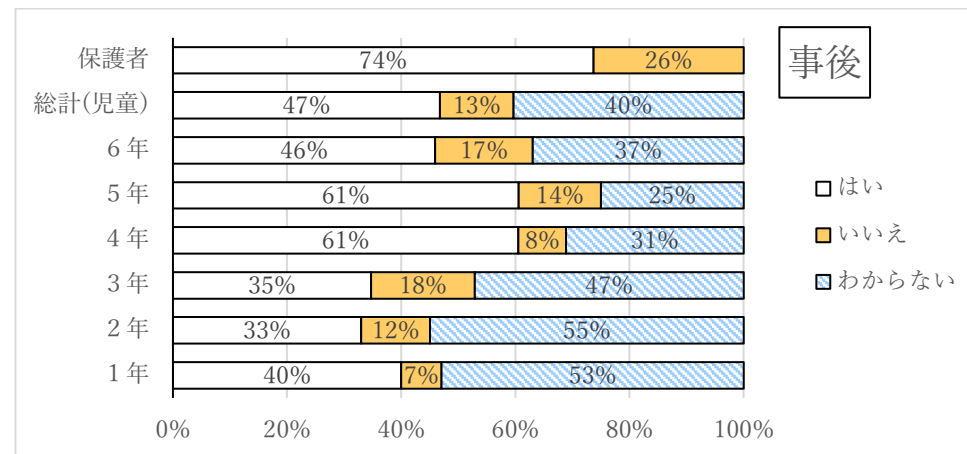
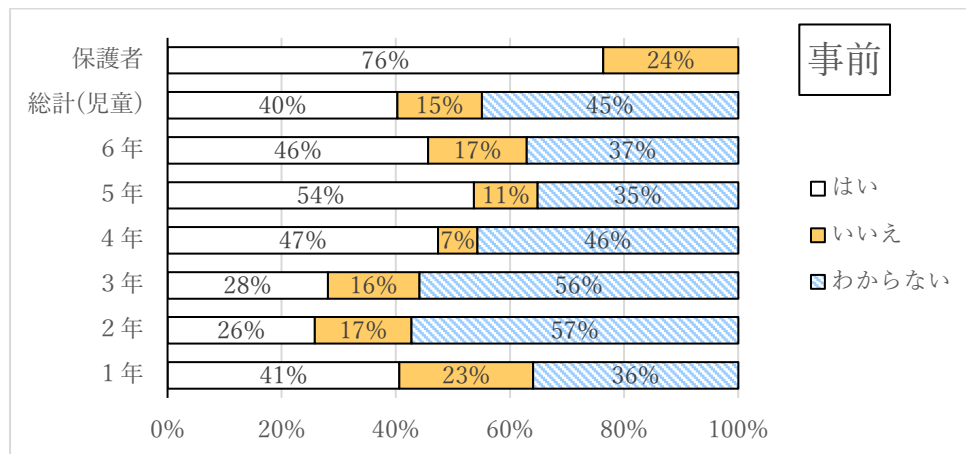
## 4. 成果と課題 ○成果 △課題

○児童だけでなく、保護者にも参加してもらうことで防災への意識を高められた。また、地域の方・消防署員の話を通じて、家庭と地域の結びつきを高められた。

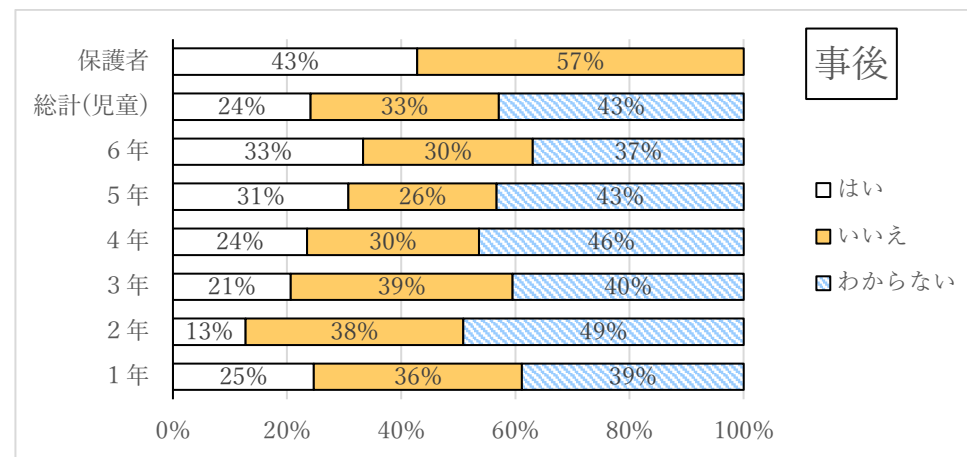
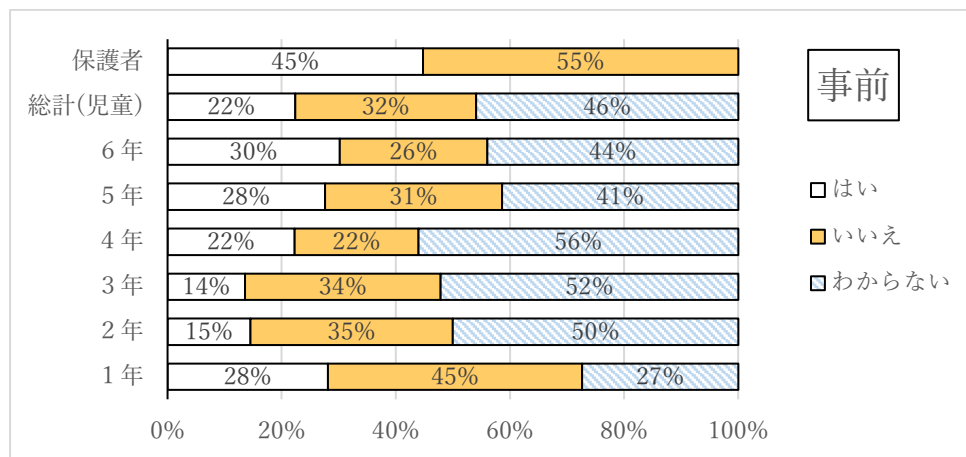
△地域、分団、消防、学校の事前協議が難航することがあった。さらに時間をかけるとよりよいものができると感じた。

# 児童・保護者への意識調査

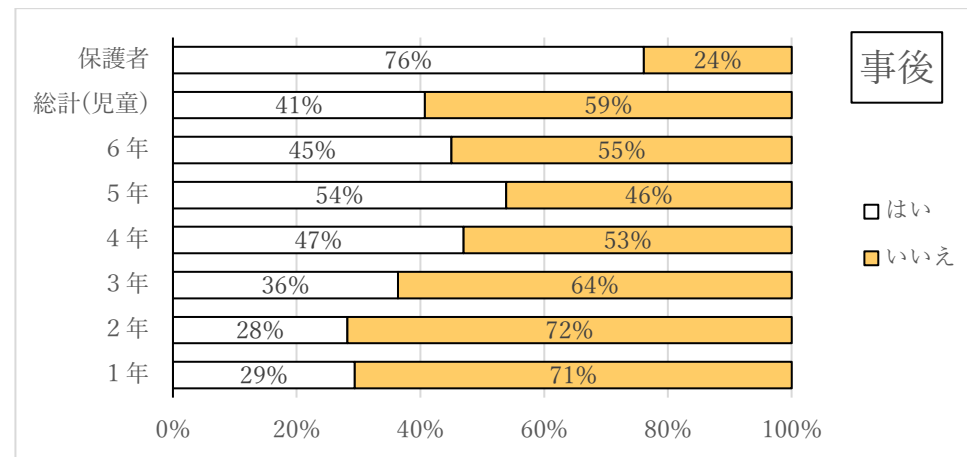
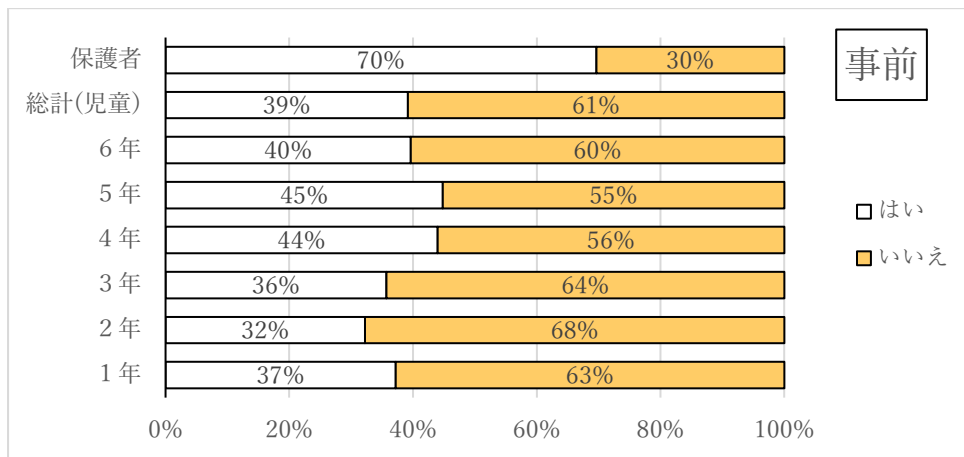
## 1. あなたの家では、地震などの災害に備えて、家で食料や薬などをたくわえていますか。



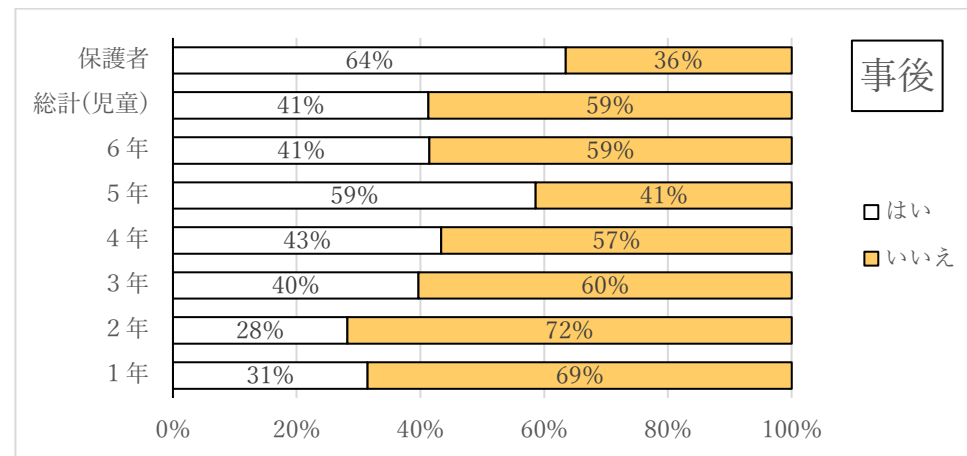
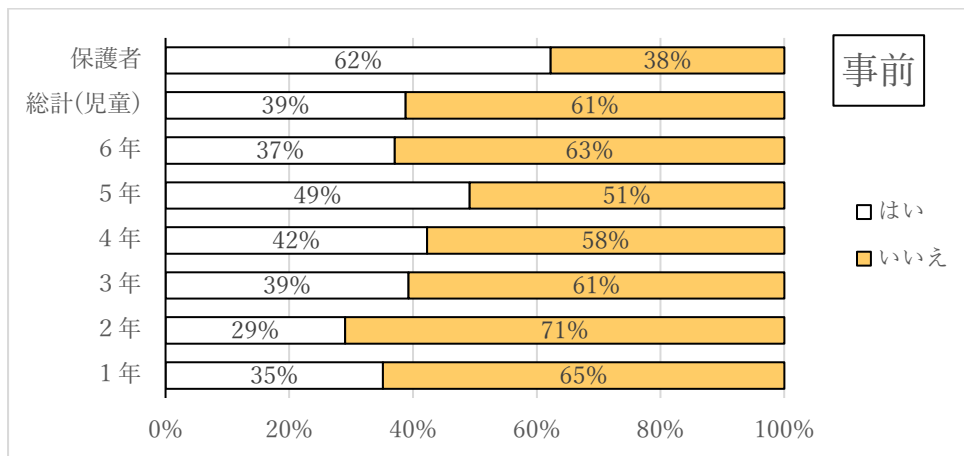
## 2. あなたの家では、地震がおこった時に、たんす・たな・冷蔵庫などが倒れないように何か対策をしていますか。



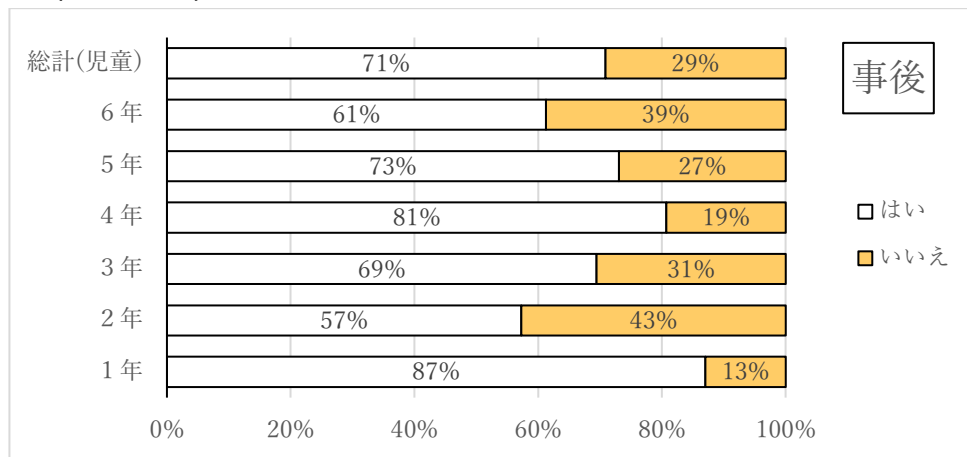
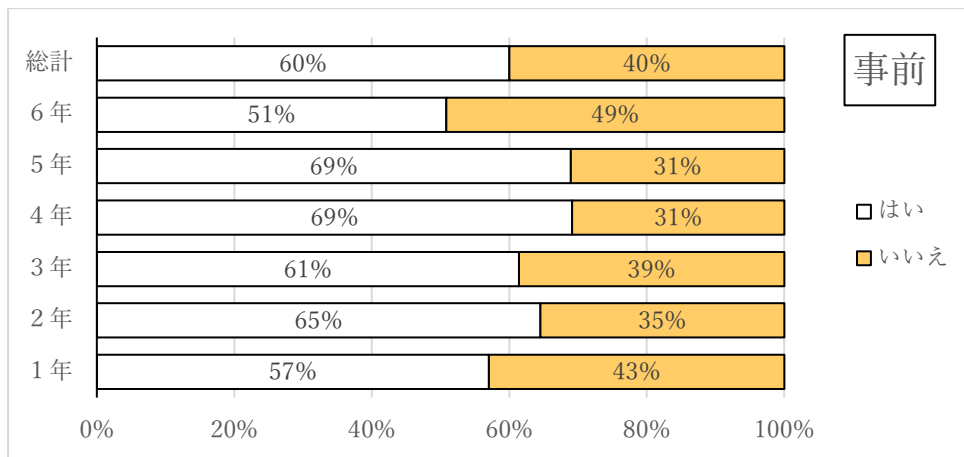
### 3. 家族と地震などの災害について話し合うことはありますか。



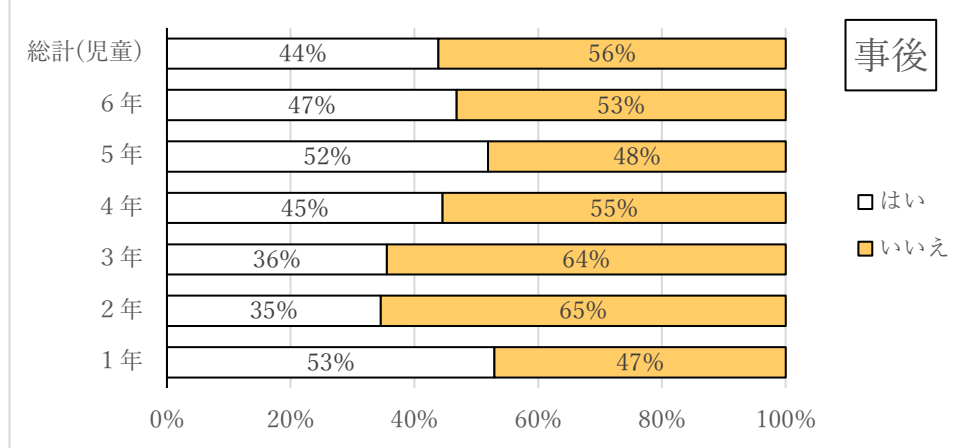
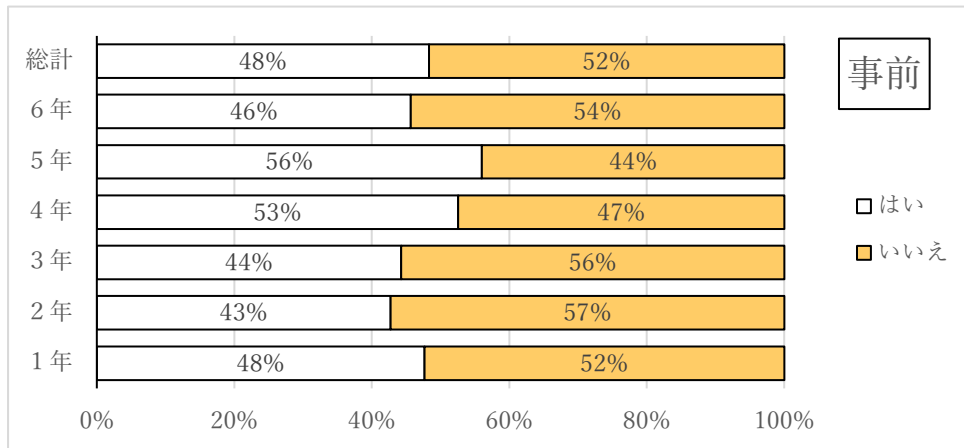
### 4. 家族と災害の時の避難方法・避難場所などについて話し合っていますか。



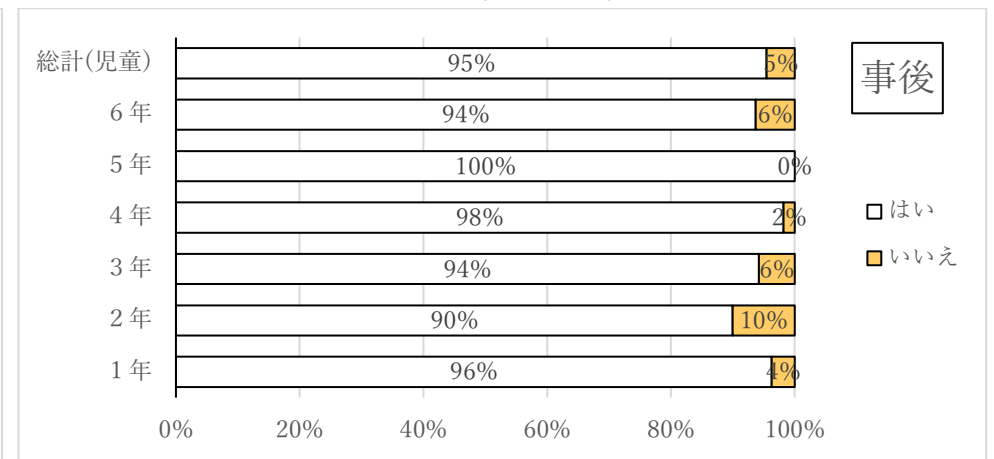
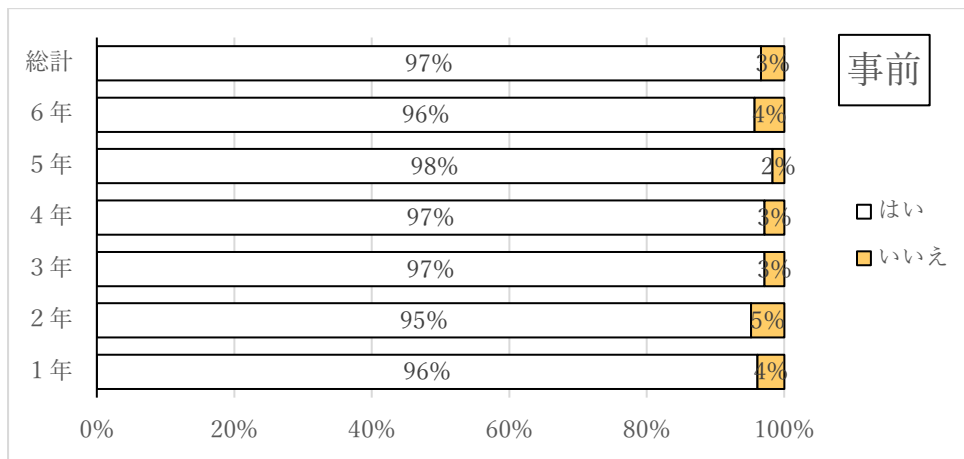
## 5. 学校で避難訓練や地震や災害など学んだことを家族に話しますか。(児童のみ)



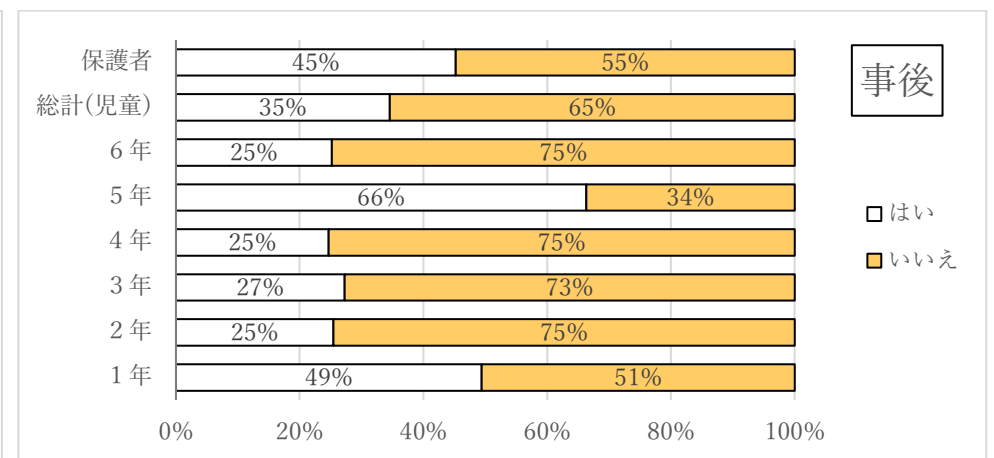
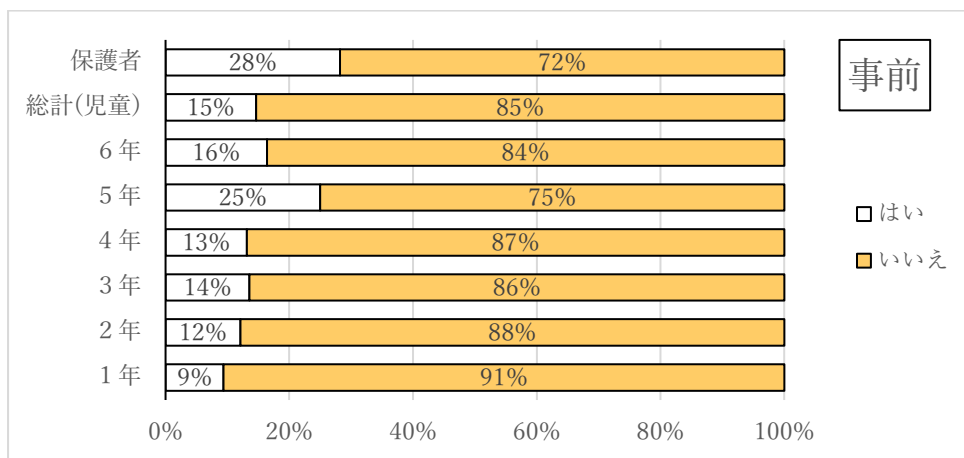
## 6. 家で、家族から災害について話を聞くことはありますか。(児童のみ)



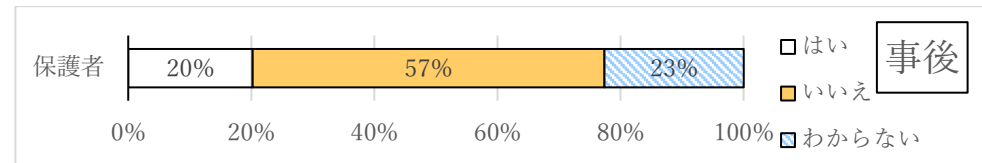
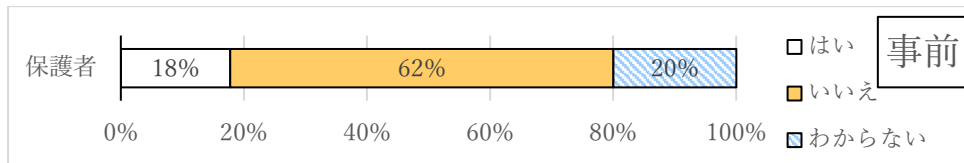
7. 学校では避難訓練をしています、あなたは、学校で避難訓練することは必要だと思いますか。(児童のみ)



8. 地域の防災イベントに参加したことはありますか。



9. お住いの地域で地震などの災害について地域の方と話し合う機会はありますか（保護者のみ）



10. 四街道市が発行するハザードマップを知っていますか。

